



## Cisco Unified SIP Proxy ルート コマンド

---

- 「route table file」
- 「route table」
  - 「key default-sip」
  - 「key group」
  - 「key policy」
  - 「key response」
  - 「key route-uri target-destination」
  - 「key target-destination」
- 「route group」
  - 「element route-uri」
  - 「element route-uri target-destination」
  - 「element target-destination」
  - 「failover-codes」
  - 「time-policy (要素)」
  - 「weight」

# route table file

ファイルからルートテーブルのルートを読み込むには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードで **route table** ファイル コマンドを使用します。ファイルからロードしたルートテーブルとルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
route table table_name file route-file
```

```
no route table table_name file route-file
```

## 構文の説明

<i>table_name</i>	<b>route table</b> コマンドを使用して設定されたルートテーブル名を指定します。
<b>file</b> <i>route-file</i>	ルート情報のロード元であるファイルを指定します。ファイルパスの先頭には <b>pfs:/cusp/routes/</b> を指定する必要があります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

Cisco Unified SIP Proxy バージョン	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。
8.5	このコマンドが次のように更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルからロードされたルートと、システム上に設定されているルートの両方で構成されるルートテーブルを使用できます。</li> <li>ルートテーブル ファイルから情報をアップロードした後、ファイルをアップロードした場所に保存しておく必要がなくなりました。</li> </ul>

## 使用上のガイドライン

- ルートテーブルの制約事項：
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 1.1.x では、ルートテーブルは、このコマンドを使用してファイルからロードされるルート、または **route table** サブモード コマンドを使用して設定されるルートで構成されます。ただし、ルートテーブルでは、ファイルからロードされるルートと、システム上で設定されるルートは混在できません。
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 では、このコマンドを使用すると、ルート サブモードが開始されます。したがって、ファイルからルートを読み込んだ後、ルートテーブルにさらに変更を加えることができます。ファイルからロードされたルートと、システム上に設定されているルートの両方で構成されるルートテーブルを使用できます。

- ルート テーブル ファイルの位置 :
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 1.1.x では、アップロードしたファイルはその場所に残す必要がありました。ファイルを残さないと、リブート時にシステムからルート設定が失われるためです。
  - Cisco Unified SIP Proxy Release 8.5 では、アップロード後にファイルをその位置に残す必要はありません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

**例**

次の例では、ファイル `routes.txt` のルートをルート テーブル `t1` にロードする方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1 file pfs:/cusp/routes/routes.txt
```

次の例では、ルート テーブルを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no route table t1
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	request-URI をルーティング テーブルのキーに割り当てます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# route table

ルートテーブルを作成し、ルートテーブルコンフィギュレーションモードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーションモードで **route table** コマンドを使用します。ルートテーブルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route table** *table\_name*

**no route table** *table\_name*

## 構文の説明

*table\_name* ルートテーブルの名前を指定します。

## コマンド デフォルト

ルートテーブルは設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを入力してから、ルートテーブルコンフィギュレーションモードを開始します。ルートテーブルに追加するルートを設定するには、このコンフィギュレーションモードでコマンドを使用します。 **key group**、**key target-destination**、**key response**、および **key route-uri target-destination** コマンドを使用して指定したルートテーブルのキーに基づいて、検索は実行されます。空白スペースを含むキーは、引用符を使用して指定する必要があります。

ルートテーブルは、このコマンドを使用してアクセスされるサブモードコマンドを使用して設定されるルート、または **route table file** コマンドを使用してファイルからロードされるルートで構成されます。ただし、ルートテーブルでは、システム上で設定されるルートと、ファイルからロードされるルートは混在できません。



### (注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ルートテーブル **t1** を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)>
```

次の例では、ルートテーブルを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no route table t1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table file</b>	ファイルからルート テーブルのルートを読み込みます。

# key default-sip

RFC 3263 を使用して単純にルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定するには、ルート コンフィギュレーション モードで **key default-sip** コマンドを使用します。ルート テーブルからキーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key default-sip network**

**no key key default-sip**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キーを指定します。
<i>network</i>	( <b>sip network</b> コマンドを使用して以前に設定された) このルートに関連付けられている SIP ネットワークの名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。

## 例

次の例では、RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt) > key 973 default-sip external
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0 (cusp-config) > route table t1
se-10-0-0-0 (cusp-config-rt) > no key 973 default-sip
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。

コマンド	説明
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key group

ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それを検索キーの番号に関連付けるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key group** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーからルート グループの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key group route-group name**

**no key key**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キーを指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>route-group name</i>	<b>route-group</b> の名前を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

ルート グループと Request-URI を (**key target-destination** コマンドを使用して) 同じキー番号に割り当てることはできません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、以前に設定したルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 group users
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key policy

検索ポリシーをルーティング テーブルのキーに割り当てるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key policy** コマンドを使用します。ルーティング テーブルのキーからルート ポリシーの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key policy route-policy**

**no key key policy route-policy**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>route-policy</i>	ルーティング テーブルで使用するルート検索ポリシー ( <b>policy lookup</b> コマンドで設定したポリシー) を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

指定したネクストホップのタプルが、ルート アドバンス処理によって使い尽くされた場合にルーティングする先の定義済みのルーティング ポリシーをこのコマンドを使用して設定します。このコマンドは、まず **policy lookup** コマンドを使用してポリシーを設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、以前に設定した検索ポリシーをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> policy lookup p1
se-10-0-0-0(cusp-config-lookup)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 policy p1
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>policy lookup</b>	検索ポリシーを設定し、検索ポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key response

応答コードをルーティング テーブルの検索キーに割り当てるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key response** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーから応答コードの割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key response response-code*

**no key** *key [response response-code]*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>response-code</i>	<b>failover-resp-code</b> コマンドを使用して応答コードを設定済みとして指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、まず **failover-resp-code** コマンドを設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、応答コードをルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> server-group sip t1
se-10-0-0-0(cusp-config-sg)> failover-resp-code 404
se-10-0-0-0(cusp-config-sg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 response 404
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>failover-resp-code</b>	SIP サーバグループのフェールオーバー応答コードを設定します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# key route-uri target-destination

route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えるには、Cisco Unified SIP Proxy ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key route-uri target-destination** コマンドを使用します。ルーティング テーブルの検索キーから route-URI の割り当てを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key** *key route-uri route-uri target-destination target-destination network*

**no key** *key [route-uri route-uri target-destination target-destination network]*

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<b>route-uri</b> <i>route-uri</i>	ルーティング テーブルに割り当てる route ヘッダーフィールドの URI を指定します。
<b>target-destination</b> <i>target-destination</i>	request-URI のホストとポート、およびトランスポートを指定します。このフィールドの形式は host:port:transport です。port と transport は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワーク名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

route-URI は、まず **element route-uri** コマンドを使用して設定する必要があります。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI をルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 route-uri sip:external@example.com;lr
target-destination 192.168.1.1:5060 external
```

次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	route-URI ヘッダーを追加し、それをルート グループの request-URI ヘッダーに置き換え、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key target-destination</b>	ターゲット宛先を、発信 SIP 要求の指定された値で置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。

# key target-destination

宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えるには、ルート テーブル コンフィギュレーション モードで **key target-destination** コマンドを使用します。ルーティング テーブルのキーから request-URI を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**key key target-destination target-destination network**

**no key key [target-destination request-uri-host-port network]**

## 構文の説明

<i>key</i>	ルート テーブルの検索キー番号を指定します。検索キーは、一致している SIP メッセージの一部を表します。また、ルーティング テーブルに対して一意である必要があります。
<i>target-destination</i>	ルーティング テーブルに割り当てる request-URI のホストとポート、およびトランスポートを指定します。このフィールドの形式は host:port:transport です。port と transport は省略可能です。
<i>network</i>	SIP ネットワーク名を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

ルート テーブル コンフィギュレーション (cusp-config-rt)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

request-URI はまず **element target-destination** コマンドを使用して設定する必要があります。  
request-URI と (**key group** コマンドを使用する) ルート グループは、同じキー番号を使用できません。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、宛先をルーティング テーブルに割り当て、それにキー番号を割り当てる方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group users
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element target-destination sip:external@example.com internal
1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> exit
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> key 973 target-destination hostnameB internal
```



次の例では、ルート テーブルから検索キーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route table t1
se-10-0-0-0(cusp-config-rt)> no key 973
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>key default-sip</b>	RFC 3263 を使用してルーティングされるようにルート テーブルのメッセージを設定します。
<b>key group</b>	ルート グループをルーティング テーブルに割り当て、それをキー番号に関連付けます。
<b>key policy</b>	ルート ポリシーをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key response</b>	応答コードをルーティング テーブル内のキーに割り当てます。
<b>key route-uri target-destination</b>	route-URI をルーティング テーブルの検索キーに割り当て、宛先を発信 SIP 要求に指定された値に置き換えます。
<b>route table</b>	ルート テーブルを作成し、ルート テーブル コンフィギュレーション モードを開始します。

# route group

ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション モードで **route group** コマンドを使用します。ルート グループを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**route group** *route-group-name* [**time-policy**] [**weight**]

**no route group** *route-group-name*

## 構文の説明

<i>route-group-name</i>	ルート グループの名前を指定します。
<b>time-policy</b>	(オプション) <b>policy time</b> コマンドで設定された時間に基づくルーティング設定をイネーブルにします。この設定は、時間に基づくルーティングを実装する場合に、このルート グループが使用します。このオプションは、デフォルトではディセーブルです。
<b>weight</b>	(オプション) そのルート グループについて、重み付けに基づくルーティング設定をイネーブルにします。オンにすると、ルート グループは次のルートを選択するアルゴリズムとして重み付けを使用します。このオプションは、デフォルトではディセーブルです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy コンフィギュレーション (cusp-config)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドはルート グループとそのルート グループ要素を設定します。ルート グループは、1 つまたは複数のルート グループ要素、またはネクストホップのタプル設定のセットです。ルート グループを使用すると、ネクストホップのデータ タブルの特定のセットを、複数のルート設定で再利用できます。



### (注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、ルート グループ **g1** を作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)>
```

次の例では、重み付けに基づくルーティングを使用してルート グループを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1 weight
```

次の例では、時間に基づくルーティングと重み付けに基づくルーティングを使用してルート グループを作成する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1 time-policy weight
```

次の例では、ルート グループを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> no route group g1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>policy time</b>	時間ポリシーを作成し、時間ポリシー コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>show routes table</b>	設定済みの Cisco Unified SIP Proxy ルートを表示します。

# element route-uri

route-URI ヘッダーを追加し、それをルート グループの request-URI ヘッダーに置き換える場合、および要素コンフィギュレーション モードを開始する場合、Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element-route-uri** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element route-uri route-uri network [q\_value]**

**no element route-uri route-uri network**

## 構文の説明

<b>route-uri</b> <i>route-uri</i>	Route-URI ヘッダーを指定します。
<b>request-uri</b> <i>request-uri</i>	Route-URI ヘッダーを置き換える Request-URI ヘッダーを指定します。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバ グループ内の他のサーバ グループ要素に対するサーバ グループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

route-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のネットワークに複数の route-URI を割り当てることができます。

**weight** オプションの場合、サーバ グループの各要素に重み付けが割り当てられます。それによって、サーバ グループ内で同じプライオリティ (q-value) を持つ他の要素の重み付けに対して、重み付けに比例するトラフィックの負荷を各要素が受信します。



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI 要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com ;lr internal
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから route-URI 要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> no element route-uri sip:external@example.com ;lr internal
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# element route-uri target-destination

route-URI 要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始するには、Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element-route-uri** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element route-uri route-uri request-uri-host-port request-uri-host-port network [q\_value]**

**no element route-uri route-uri network**

## 構文の説明

<i>route</i>	Route-URI ヘッダーを指定します。
<i>request-uri-host-port</i>	要求の Request-URI-host-port を指定します。このフィールドの形式は、host:port です。port は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバ グループ内の他のサーバ グループ要素に対するサーバ グループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

route-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン

特定のネットワークに複数の route-URI を割り当てることができます。



### (注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、route-URI 要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com;lr
request-uri-host-port 192.168.1.1:5060 internal
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから route-URI 要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> no element route-uri sip:external@example.com;lr
request-uri-host-port 192.168.1.1.:5060
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# element target-destination

宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始するには、ルート グループ コンフィギュレーション モードで **element target-destination** コマンドを使用します。ルート グループからルート エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**element target-destination target-destination network [q\_value]**

**no element target-destination target-destination**

## 構文の説明

<i>target-destination</i>	要求の宛先に基づいて、ネクストホップのタプルを指定します。このフィールドの形式は、host:port です。port は省略可能です。
<i>network</i>	<b>sip network</b> コマンドを使用して設定された SIP ネットワークを指定します。
<i>q_value</i>	(オプション) サーバグループ内の他のサーバグループ要素に対するサーバグループ要素のプライオリティを指定する実際の数値を表します。有効な値は 0.0 ~ 1.0 です。デフォルトは 1.0 です。

## コマンド デフォルト

request-URI 要素は設定されません。

## コマンド モード

Cisco Unified SIP Proxy ルート グループ コンフィギュレーション (cusp-config-rg)

## コマンド履歴

### Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容

1.0	このコマンドが追加されました。
-----	-----------------

## 使用上のガイドライン



(注)

このコマンドでは、コンフィギュレーションの変更を反映するために **commit** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次の例では、宛先要素をルート グループに追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element target-destination hostnameB internal
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)>
```

次の例では、ルート グループから宛先要素を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> no element target-destination hostnameB
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>sip network</b>	論理 SIP ネットワークを作成し、SIP ネットワーク コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。

# failover-codes

要素の request-URI または要素の route-URI のフェールオーバー コードを設定するには、要素の request-URI コンフィギュレーション モードまたは要素の route-URI コンフィギュレーション モードで **failover-codes** コマンドを使用します。フェールオーバー コードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**failover-codes** *codes* [ - *code*] [ , *continue*]

**no failover-codes**

## 構文の説明

*codes* SIP 応答コードをカンマ区切りで指定します。複数の範囲を示すために使用するカンマとダッシュの前後には、単一の空白スペースを入力する必要があります。

## コマンド デフォルト

フェールオーバー コードは設定されません。

## コマンド モード

要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルート アドバンスが発生するのは、ダウンストリーム要素から、指定した応答コードの 1 つをプロキシが受信した場合です。

## 例

次の例では、ルート グループの route-URI 要素に応答コードを追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> failover-codes 502 , 503
```

次の例では、ルート グループの route-URI 要素に応答コードを追加する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> failover-codes 502 , 504 - 508 , 588
```

次の例では、route-URI 要素からフェールオーバー コードを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no failover-codes
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI に割り当てる割合を設定します。

# time-policy (要素)

要素の request-URI または要素の route-URI の時間ポリシーを設定するには、要素の request-URI コンフィギュレーション モードまたは要素の route-URI コンフィギュレーション モードで **time-policy** コマンドを使用します。時間ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**time-policy policy**

**no time-policy**

## 構文の説明

*policy* 時間に基づくルーティングを実装する場合、**policy time** コマンドを使用して以前に設定した時間ポリシーを指定します。このオプションが有効なのは、**time-policy** オプションが **route group** コマンドで指定されている場合だけです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 例

次の例では、route-URI 要素の時間ポリシーを設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> time-policy tp1
```

次の例では、route-URI 要素から時間ポリシーを削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no time-policy
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。

コマンド	説明
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>weight</b>	重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI に割り当てる割合を設定します。

# weight

重み付けに基づくルーティングを実装する場合に request-URI または route-URI に割り当てる重み付けの割合を設定するには、要素コンフィギュレーション モードで **weight** コマンドを使用します。重み付けを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**weight weight**

**no weight**

## 構文の説明

*weight* 重み付けに基づくルーティングを実装する場合にルート グループの request-URI または route-URI に割り当てる割合を設定します。有効な範囲は 0 ~ 100 です。設定しない場合、デフォルトの重み付けは 50 です。このオプションが有効なのは、**weight** オプションが **route group** コマンドで指定されている場合だけです。

## コマンド デフォルト

50

## コマンド モード

要素コンフィギュレーション (cusp-config-rg-element)

## コマンド履歴

**Cisco Unified SIP Proxy バージョン 変更内容**

1.0 このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ルート グループの各要素に重み付けが割り当てられます。各要素は、その重み付けに比例したトラフィックの負荷を受信します。

## 例

次の例では、重み付けに基づくルーティングの 50% の重み付けがある route-URI 要素を設定する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config)> route group g1
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> weight 50
```

次の例では、route-URI 要素から重み付け値を削除する方法を示します。

```
se-10-0-0-0(cusp-config-rg)> element route-uri sip:external@example.com internal 1.0
se-10-0-0-0(cusp-config-rg-element)> no weight
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>commit</b>	反映するように選択された Cisco Unified SIP Proxy コマンドのコンフィギュレーションの変更を有効にします。
<b>element route-uri</b>	request-URI 要素をルート グループに追加します。
<b>element target-destination</b>	宛先要素をルート グループに追加し、要素コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>failover-codes</b>	request-URI 要素または route-URI 要素のフェールオーバーコードを設定します。
<b>route group</b>	ルート グループを作成し、ルート グループ コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>time-policy (要素)</b>	時間に基づくルーティングを実装する場合に使用する時間ポリシーを設定します。

■ weight